

## 第30回人権を考える集いを終えて

10月7日(土)に第30回人権を考える集いを開催しました。今回は海蔵小学校体育館をお借りして、映画「オケ老人！」を上映しました。ストーリーは一人のクラシック好きの高校教師と平均年齢、おそらく世界最高齢？のアマチュア・オーケストラの笑いと涙に包まれた奮闘と青春を描いた物語です。梅が岡高校に赴任してきた数学教師の千鶴（杏）は、ヴァイオリン演奏の経験をいかすべく、その町のプロ並みのアマオケに入団…したつもりが、入った先は年寄りばかり、素人丸出しの《梅が岡交響楽団》だった。千鶴の入団を大喜びする老人たちに「楽団名を間違えた」と言い出せず参加することになり、しまいには指揮棒を振るはめに…。そこへエリートアマオケ《梅響》も現れ、危機が訪れる。どうする千鶴!? オケ老人!? 果たして彼らは演奏会を成し遂げられるのか!? 心躍るクラシック音楽が全編を彩り、千鶴先生と日本一個性豊かで熱い老人たちが感動のフィナーレ…という内容でした。映画で流れる音楽、「新世界より」「威風堂々」に感動しました。笹野高史さん・小松政夫さん・藤田弓子さん・茅島成美さん・石倉三郎さん・左とん平さんたちにクスクス、ゲラゲラ、ホロリとさせられ、元気をくれる映画でした。高齢者だからといって、何も出来ない決めつけてはいけません。昔取ったキノヅカ、高齢者の持っているポテンシャルを侮ってはいけません。そんな映画でした。



参加者数は116名で、アンケート結果で回答者全員が良い映画だったと回答していただきました。意見・感想の一部を紹介します。「高齢者もまだまだ元気になれる映画でした。楽しみを持つことはいいことだと思います。」「とても感動しました。生きがいを持って生きることのすばらしさをあらためて思いました。」「とても興味深く見させていただきました。勇気をもらいました。人生百年時代、前向きに頑張って生きていきます。」等の感想をいただきました。またどんな趣味をもっているかの設問では、①スポーツ、②旅行、③園芸・庭いじりがベスト3でした。多くの皆さんが体を動かす趣味をお持ちでした。趣味があるのとないのとでは、人生の楽しみ方が大きく違います。それは何歳になっても

同じこと。シニア、高齢者にとっての趣味は楽しむものだけではなく介護予防にも役立ちます。

豊かな高齢社会を実現するためには、豊富な知識を持っている高齢者が、住み慣れた地域で生活し続けられ、また、若い世代とともに地域社会の様々な活動に参加できるよう、社会環境づくりを進めていくことが重要です。高齢者は地域社会の邪魔者ではなく宝物です。この映画はそんなことを教えてくれました。(F)



## ヤングケアラー

最近、耳にすることが増えた「ヤングケアラー」とは、どういったものなのか、現状はどうか、調べてみました。

ヤングケアラーとは 法令上の定義はなく、一般に、本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされています。

# ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : izumi Shiga

四日市市でも令和3年度に「四日市市子どもの生活実態調査」が行われていて、その結果を読んで印象に残ったことは、

「家庭によるケア役割や家事等の為、まわりの子より、遊ぶ時間や勉強の時間を、減らさないといけない経験 をしている子どもやその保護者はヤングケアラーという自覚がない場合や役割自体に居場所を見出している」ということでした。

また、「文化的経験が多い子どもよりも少ない子どもの方が自己肯定感が低く、進学意欲も低い場合があり、それらが不登校につながる可能性もある」ということでした。

家庭庁の調査では、「令和2年度に中学2年生・高校2年生を、令和3年度に小学6年生・大学3年生を、それぞれ対象にした

厚生労働省の調査では、世話をしている家族が「いる」と回答したのは小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%、高校2年生で4.1%、大学3年生で6.2%でした。

これは、回答した中学2年生の17人に1人が世話をしている家族が「いる」と回答したことになります。」とありました。

小学校クラスに2人はいる計算になり想像していたよりも多くのヤングケアラーがいるのだと思いました。

こども家庭庁にはこう書かれていました。

「家族の手伝い・手助けをするのは「ふつうのこと」と思うかもしれません。

でも、学校生活に影響が出たり、こころやからだに不調を感じるほどの重い負荷がかかっている場合は、すこし注意が必要です。

自分のことや家のことを話すのは勇気がいると思います。

でも、あなたの話を聞いて、共感して、

サポートしてくれる人は必ずいます。

学校の先生・スクールカウンセラー・親戚の人・友達など、

信頼できる相手に相談してみましょう。

メールなどで悩みを相談できる窓口もあります。」

四日市では北西児童相談所が窓口になっています。

## **北勢児童相談所**

**510-0894**

**四日市市大字 泊村977-1**

**059-347-2030**

今回調べてみて 介護が必要な方だけでなく、ヤングケアラーなど、ケアする側の支援が必要だと、改めて思いました。

(SU)

## 2023年度の地区懇談会を終えて

海蔵地区人権・同和教育推進協議会の年間行事である地区懇談会も、皆さまのご協力を得て無事終了いたしました。お忙しい中、参加いただいた方に改めて御礼申し上げます。

本年度は、末永・本郷ブロック、西阿倉川ブロックの開催となりました。懇談会の内容は、教育ビデオ「風の匂い」を視聴し、その後、参加者を3つのグループに分け懇談会を行いました。

このビデオは、平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めている、その法律が意図するものを、ドラマ「風の匂い」を通して学んでみたいと計画しました。

このドラマは、スーパーマーケットで働く青年、歩と正人が主人公です。歩には知的障害がありますが、子どもの頃は共に遊ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になった二人を隔てる健常者と障害者という壁。その壁を作っているのは誰なのか。

二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある「合理的配慮」についても触れ、見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなるドラマです。

懇談会では、知的障害がある人には教える側が余裕を持って対応するとか、対応する人の程度や性格により、どういふことを、出来ることを、やさしく対応をしているなどの「合理的配慮」の話などいろいろな意見、いろいろな立場、いろいろな視点があり私自身、大変に勉強になりました。

来年度の開催は、阿倉川地区、三ツ谷地区、松ヶ丘・阿倉川新町地区を予定しております。

皆さまの参加をお待ちしております。

(SA)



末永・本郷ブロック



西阿倉川ブロック

◎同推くんのバックナンバーは、『かいぞう地区』のホームページからご覧いただけます。  
<http://www.kaizotiku.org/>